



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月9日

上場会社名 株式会社ダスキン 上場取引所 東
 コード番号 4665 URL <https://www.duskin.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 大久保 裕行
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画部長 (氏名) 江村 敬一 TEL 06-6821-5071
 四半期報告書提出予定日 2024年2月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	134,751	5.1	4,934	△45.3	6,860	△38.0	4,694	△38.2
2023年3月期第3四半期	128,180	4.0	9,020	△12.5	11,058	△8.9	7,594	△9.0

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 6,480百万円 (△13.8%) 2023年3月期第3四半期 7,515百万円 (△4.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	97.49	97.45
2023年3月期第3四半期	153.71	153.64

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	196,669	152,747	77.5
2023年3月期	197,524	151,774	76.6

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 152,412百万円 2023年3月期 151,360百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	40.00	-	48.00	88.00
2024年3月期	-	35.00	-	-	-
2024年3月期(予想)	-	-	-	63.00	98.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2024年3月期(予想) 期末配当金の内訳 普通配当 43円00銭 記念配当 20円00銭

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	178,700	4.8	4,500	△47.9	6,500	△42.9	4,400	△38.9	90.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	50,994,823株	2023年3月期	50,994,823株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	2,892,151株	2023年3月期	2,492,646株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	48,152,989株	2023年3月期3Q	49,409,554株

※四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(第3四半期連結累計期間)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(第3四半期連結累計期間)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2023年4月1日～2023年12月31日)における我が国経済は、5月に新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」という。)が「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」が定める五類感染症へ移行し各種行動制限が大幅に軽減され、雇用・所得環境の改善の下、緩やかながらも回復基調となりました。一方、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、エネルギー価格や原材料価格の高騰、円安進展等の下振れリスクを抱え、先行きの不透明感が高い状況が続きました。

そのような環境の中、当社は、長期戦略「ONE DUSKIN」の最終第3フェーズ「中期経営方針2022」(2023年3月期～2025年3月期)の2年目も中間点を折り返し、各種施策の実行に注力しております。訪販グループにおいては、サステナブルな洗浄・物流体制を目指して前期に開始した、マット・モップへのRFID(電子タグ)取り付けの本格化、前期に直営及び関係会社で検証を進めたクリーンサービス事業(ダストコントロール商品のレンタルと販売)家庭用営業専任組織の加盟店への拡大を図り、フードグループにおいては、ミスタードーナツのイートインメニューの増強や出店強化を図りつつ、「Uber Eats」「Wolt」によるデリバリーサービスを導入する等、顧客体験(CX)価値向上を目指した取り組みにも注力しました。

また、成長投資にも取り組み、子育て支援のリーディングカンパニーである株式会社JPホールディングスとの業務提携契約を締結すると共に、同社株式の一部を取得し持分法適用関連会社としました。また、北関東を中心にイタリアンレストラン「ナポリの食卓」等を展開する株式会社ボストンハウスの持株会社である健康菜園株式会社の完全子会社化の意思決定を行い株式譲渡契約を締結しました。

当第3四半期連結累計期間は、訪販グループ、その他が減収となったものの、フードグループが増収となったことにより、連結売上高は前年同期から65億70百万円(5.1%)増加し1,347億51百万円となりました。利益面につきましては、フードグループの増収に伴う売上総利益の増加があったものの、訪販グループが計画に沿って戦略的投資(RFID(電子タグ)取り付け)を進めたことで原価が大幅に増加したこと等により、連結営業利益は前年同期から40億85百万円(45.3%)減少し49億34百万円、連結経常利益は前年同期から41億97百万円(38.0%)減少し68億60百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期から28億99百万円(38.2%)減少し46億94百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第3四半期 (2023年3月期第3四半期)	当第3四半期 (2024年3月期第3四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
連結売上高	128,180	134,751	6,570	5.1
連結売上総利益	58,051	57,734	△316	△0.5
連結営業利益	9,020	4,934	△4,085	△45.3
連結経常利益	11,058	6,860	△4,197	△38.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	7,594	4,694	△2,899	△38.2

<セグメント毎の状況>

セグメント別売上高

(単位：百万円)

	前第3四半期 (2023年3月期第3四半期)	当第3四半期 (2024年3月期第3四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
訪販グループ	82,785	82,226	△559	△0.7
フードグループ	35,473	42,835	7,361	20.8
その他	12,307	11,747	△560	△4.6
小計	130,567	136,808	6,241	4.8
セグメント間取引消去	△2,386	△2,057	329	—
連結売上高	128,180	134,751	6,570	5.1

(注)各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

セグメント別営業利益

(単位：百万円)

	前第3四半期 (2023年3月期第3四半期)	当第3四半期 (2024年3月期第3四半期)	増 減	
			増 減	増減率 (%)
訪販グループ	7,812	3,723	△4,088	△52.3
フードグループ	4,539	5,422	882	19.4
その他	637	343	△294	△46.2
小計	12,990	9,489	△3,500	△26.9
セグメント間取引消去 及び全社費用	△3,969	△4,554	△584	—
連結営業利益	9,020	4,934	△4,085	△45.3

(注)各セグメントの営業利益は、セグメント間の取引を含んでおります。

①訪販グループ

訪販グループは、主力のクリーンサービス事業が減収となったこと等により、売上高は前年同期から5億59百万円(0.7%)減少し82億26百万円となりました。利益面につきましては、計画に沿って進めているRFID(電子タグ)取り付けに伴う原価上昇等により営業利益は前年同期から40億88百万円(52.3%)減少し37億23百万円となりました。

訪販グループ主力のクリーンサービス事業は、前年同期に比べて家庭向け、事業所向け共に減収となりました。

家庭向け商品につきましては、リニューアル後に販売が好調だった「ロボットクリーナーSiRo」、モップ商品、蛇口直結タイプの小型浄水器の売上が減少した他、前期に価格改定前の駆け込み需要があった台所用スポンジ等の売上が減少しました。しかしながら、前期から展開しております営業専任組織は、当期より加盟店へ拡大展開し、新しいお客様作りで成果を挙げつつあり、お客様数の減少幅は縮小しつつあります。

事業所向け商品は、抗菌・抗ウイルス加工を施した高機能マットは引き続き好調に推移しているものの、空気清浄機「クリア空感」の売上が減少したことや前期好調だったアルコール除菌剤等の減少により、全体の売上は減少しました。

ケアサービス事業(役務提供サービス)のお客様売上につきましては、「ホームリペア」(住まいのピンポイント補修)は減少しましたが、「サービスマスター」(プロのお掃除サービス)がエアコンクリーニングが好調に推移し増加した他、「メリーメイド」(家事代行サービス)、「ターミニックス」(害虫獣の駆除と総合衛生管理)、「トータルグリーン」(緑と花のお手入れサービス)は定期サービスが好調に推移したこと等により増加しました。

訪販グループのその他の事業につきましては、レントオール事業(日用品・イベント用品等のレンタル)が、コロナワクチン接種会場のサービス受注が減少したことにより減収となりました。しかしながら、催事等の各種イベントはコロナ拡大以前の状況に戻りつつあります。引き続き好調を維持しているヘルスレント事業(介護用品・福祉用具のレンタルと販売)、化粧品関連事業、ユニフォーム関連事業、ライフケア事業(ご高齢者の暮らしのお手伝い)は増収となりました。

②フードグループ

フードグループは、主力事業であるミスタードーナツの全店合計お客様売上が増加し、原材料売上、ロイヤルティ売上が増加したこと等により、売上高は前年同期から73億61百万円(20.8%)増加し428億35百万円となりました。営業利益は、販売商品構成の変化等により原価率が上昇したことや人件費等の増加があったものの、売上増加に伴う粗利の増加により前年同期から8億82百万円(19.4%)増加し54億22百万円となりました。

ミスタードーナツは引き続き好調を維持しており、来店お客様数、お客様単価とも前年同期を上回り、1店当たりのお客様売上は前年同期を上回りました。加えて、新規出店により稼働店舗数が増加し、全店合計お客様売上も前年同期を上回りました。商品別に見ますと、7年目となった「misdo meets 祇園辻利」、ボン・デ・リング20周年記念商品「白いボン・デ・リング」、フレンチクルーラー50周年記念商品「生フレンチクルーラー」はいずれも大変好評で売上増加に寄与しました。また第3四半期に展開したポケットモンスターとのコラボレーション企画「ポカ〜とのんびり、ひとやすみ。」キャンペーン、「ミスド ポケモン ポカ〜とコレクション」や年末恒例の「ミスド福袋2024」も好調で、売上増加に寄与しました。更には、6月の「ザクもっちリング」に続いて、注文後に焼き上げて提供する食べやすいサイズのピザ「ピザッタ」を10月に「ミスドゴハン」のラインアップに加える等、お客様の軽食需要にも対応し、好評を得ております。

フードグループのその他の事業は、店舗数が減少したパイ専門店「パイフェイス」は減収、とんかつレストラン「かつアンドかつ」は増収となりました。

③その他

その他は、国内連結子会社の売上高が増加したものの海外事業の売上高が減少したことで、全体の売上高は前年同期から5億60百万円(4.6%)減少し117億47百万円となりました。営業利益は、減収に伴う粗利減少に加え、国内の連結子会社の人件費等の増加影響もあって、前年同期から2億94百万円(46.2%)減少し3億43百万円となりました。

国内で展開している、病院施設のマネジメントサービス(株式会社ダスキンヘルスケア)、並びにリース及び保険代理業(ダスキン共益株式会社)は共に増収となりましたが、人件費の上昇等により原価、経費が増加し減益となりました。

海外事業につきましては、中国でのダストコントロール商品のレンタルと販売(楽清(上海)清潔用具租賃有限公司)が減収となったこと、楽清香港有限公司(清算予定)から調達していたペーパータオルを国内調達に変更したこと、マレーシアを中心にドーナツ事業を展開しているBig Appleグループがコロナ拡大の収束に伴うお客様の行動変化による来店お客様数減少が続いていることにより減収となったことで、前年同期の売上を下回る結果となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,966億69百万円となりました。前連結会計年度末(以下「前期末」という。)と比較して8億55百万円減少しております。その要因は、有価証券が75億63百万円、現金及び預金が55億73百万円、ソフトウェアが6億11百万円減少したことに対し、投資有価証券が63億21百万円、未収入金が49億59百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が6億81百万円、原材料及び貯蔵品が4億58百万円、商品及び製品が4億38百万円増加したこと等であります。

負債残高は439億22百万円となり、前期末と比較して18億28百万円減少しております。その要因は、賞与引当金が21億42百万円、未払金が18億69百万円、未払法人税等が9億円減少したことに対し、繰延税金負債が15億74百万円、支払手形及び買掛金が11億82百万円増加したこと等であります。

純資産残高は1,527億47百万円となり、前期末と比較して9億72百万円増加しております。その要因は、その他有価証券評価差額金が19億35百万円、利益剰余金が6億48百万円増加したことに対し、自己株式の取得等により、自己株式が13億62百万円増加(純資産は減少)したこと等であります。

(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明

2024年3月期(2023年4月1日～2024年3月31日)通期の業績予想(連結・個別)につきましては、2023年5月15日に公表した従来の予想を、そのセグメント毎の内訳は同年11月8日に公表した予想をそれぞれ変更しておりません。

2024年1月1日及びそれ以降に発生いたしました「令和6年能登半島地震」により、当社子会社である株式会社和倉ダスキンの和倉工場において、建物の損壊及び設備の破損が発生し、操業を一部停止しております。なお、この地震による損害額は現在算定中であり、連結業績に及ぼす影響額は、現時点では未確定であります。業績予想に修正の必要が生じた場合、速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,207	12,633
受取手形、売掛金及び契約資産	11,553	12,235
リース債権及びリース投資資産	1,003	1,032
有価証券	19,864	12,301
商品及び製品	8,212	8,651
仕掛品	290	266
原材料及び貯蔵品	2,629	3,087
未収入金	5,666	10,626
その他	1,707	1,783
貸倒引当金	△13	△11
流動資産合計	69,122	62,607
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	45,027	45,595
減価償却累計額	△30,546	△31,394
建物及び構築物（純額）	14,481	14,200
機械装置及び運搬具	26,141	27,104
減価償却累計額	△18,754	△19,533
機械装置及び運搬具（純額）	7,386	7,571
土地	22,439	22,439
建設仮勘定	320	728
その他	15,715	16,615
減価償却累計額	△11,267	△11,954
その他（純額）	4,448	4,660
有形固定資産合計	49,076	49,601
無形固定資産		
のれん	253	273
ソフトウェア	5,645	5,033
その他	1,556	1,502
無形固定資産合計	7,454	6,809
投資その他の資産		
投資有価証券	61,743	68,065
退職給付に係る資産	2,987	2,998
繰延税金資産	887	907
差入保証金	5,260	5,027
その他	1,012	673
貸倒引当金	△19	△19
投資その他の資産合計	71,871	77,651
固定資産合計	128,402	134,062
資産合計	197,524	196,669

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,594	8,776
未払法人税等	1,147	246
賞与引当金	4,022	1,880
資産除去債務	—	4
未払金	9,759	7,890
レンタル品預り保証金	8,771	9,015
その他	5,537	5,484
流動負債合計	36,832	33,297
固定負債		
長期借入金	1,115	892
退職給付に係る負債	5,850	6,078
資産除去債務	607	636
長期預り保証金	982	1,081
長期未払金	9	9
繰延税金負債	352	1,926
固定負債合計	8,917	10,625
負債合計	45,750	43,922
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,088	11,113
利益剰余金	124,943	125,591
自己株式	△7,102	△8,465
株主資本合計	140,282	139,591
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,532	10,468
繰延ヘッジ損益	△0	△0
為替換算調整勘定	245	471
退職給付に係る調整累計額	2,300	1,881
その他の包括利益累計額合計	11,078	12,820
新株予約権	49	49
非支配株主持分	364	284
純資産合計	151,774	152,747
負債純資産合計	197,524	196,669

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	128,180	134,751
売上原価	70,129	77,016
売上総利益	58,051	57,734
販売費及び一般管理費	49,030	52,799
営業利益	9,020	4,934
営業外収益		
受取利息	121	164
受取配当金	366	402
設備賃貸料	135	123
受取手数料	193	179
持分法による投資利益	555	649
その他	883	703
営業外収益合計	2,255	2,223
営業外費用		
支払利息	0	0
設備賃貸費用	84	75
その他	132	222
営業外費用合計	217	297
経常利益	11,058	6,860
特別利益		
固定資産売却益	3	1
特別利益合計	3	1
特別損失		
固定資産売却損	1	0
固定資産廃棄損	30	62
減損損失	30	95
関係会社清算損失引当金繰入額	26	—
特別損失合計	89	158
税金等調整前四半期純利益	10,971	6,703
法人税等	3,331	1,970
四半期純利益	7,640	4,733
非支配株主に帰属する四半期純利益	46	38
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,594	4,694

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	7,640	4,733
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	374	1,951
為替換算調整勘定	242	143
退職給付に係る調整額	△847	△416
持分法適用会社に対する持分相当額	105	68
その他の包括利益合計	△124	1,747
四半期包括利益	7,515	6,480
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,461	6,436
非支配株主に係る四半期包括利益	54	43

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年11月8日開催の取締役会決議に基づき、当第3四半期連結累計期間において自己株式527,000株の取得を行いました。この結果、「従業員持株会信託口」が保有する当社株式の処分等による増減も含めて自己株式が1,362百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が8,465百万円となっております。

(セグメント情報等)

セグメント情報

①前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

イ. 報告セグメント毎の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注3)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注4)
売上高						
クリーンサービス事業	60,934	—	—	60,934	—	60,934
ケアサービス事業	10,342	—	—	10,342	—	10,342
ミスタードーナツ事業	—	34,129	—	34,129	—	34,129
その他	10,993	1,331	8,746	21,071	—	21,071
顧客との契約から生じる収益	82,270	35,461	8,746	126,478	—	126,478
その他の収益(注2)	—	—	1,702	1,702	—	1,702
外部顧客への売上高	82,270	35,461	10,448	128,180	—	128,180
セグメント間の内部売上高 又は振替高	515	12	1,858	2,386	△2,386	—
計	82,785	35,473	12,307	130,567	△2,386	128,180
セグメント利益又は損失(△)	7,812	4,539	637	12,990	△3,969	9,020

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. 「その他の収益」は、事務用機器及び車両のリースから発生しております。

3. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,969百万円には、セグメント間取引消去32百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△4,002百万円が含まれております。

4. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

ロ. 報告セグメント毎の固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	66	10	8	—	85
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	202	18	49	—	270

(注) 当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高194百万円(訪販グループ)、18百万円(フードグループ)、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高49百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

②当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

イ. 報告セグメント毎の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注3)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注4)
売上高						
クリーンサービス事業	60,107	—	—	60,107	—	60,107
ケアサービス事業	10,627	—	—	10,627	—	10,627
ミスタードーナツ事業	—	41,437	—	41,437	—	41,437
その他	11,021	1,376	8,480	20,878	—	20,878
顧客との契約から生じる収益	81,756	42,814	8,480	133,051	—	133,051
その他の収益(注2)	—	—	1,699	1,699	—	1,699
外部顧客への売上高	81,756	42,814	10,179	134,751	—	134,751
セグメント間の内部売上高 又は振替高	469	20	1,567	2,057	△2,057	—
計	82,226	42,835	11,747	136,808	△2,057	134,751
セグメント利益又は損失(△)	3,723	5,422	343	9,489	△4,554	4,934

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. 「その他の収益」は、事務用機器及び車両のリースから発生しております。

3. セグメント利益又は損失(△)の調整額△4,554百万円には、セグメント間取引消去32百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△4,587百万円が含まれております。

4. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

ロ. 報告セグメント毎の固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第3四半期連結累計期間の償却額及び当第3四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位: 百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第3四半期連結累計期間償却額	80	5	8	—	94
当第3四半期連結会計期間末残高(注)	224	9	38	—	273

(注)当第3四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高222百万円(訪販グループ)、9百万円(フードグループ)、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高38百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。